



2020年1月、ブレーメン通り商店街の一行は、新大使就任祝いのご挨拶のため、ドイツ連邦共和国大使館の公邸を訪問しました。商店街としてドイツ大使館を訪問するのは二度目になります。メンバーは元理事長の山田さん、現理事長の伊藤さん、副理事長の宇野さんと、同じく副理事長の小宮さんです。今回の訪問は、田中和徳復興大臣がセッティングしてくれました。中原区が選挙区の田中大臣は、商店街の顧問を務めています。1998年のブレーメン像設置の際、田中大臣(当時は衆議院議員)の尽力で、川崎市に許可を得ることができました。以来、商店街の顧問を引き受けていただいているそうです。

《ドイツ交流 特別企画》

ブレーメン通り商店街一行 ドイツ大使館訪問記

ドイツ大使館の最寄り駅は広尾です。南部坂を上ると、右手に大使館を囲む壁が続きます。壁にはドイツ語の面白い単語や変わった言い回しを紹介する「今週のドイツ語」が貼ってありました。待ち合わせた田中大臣と公邸へ入ると、大使が通訳の女性とにこやかに出迎えてくれました。イナ・レーベル大使は、初の女性駐日ドイツ大使です。2019年9月より日本に就任されました。レーベル大使は伊藤さんのネクタイの柄が、ブレーメン像だと、すぐに気がつきました。伊藤さんは嬉しそうに、商店街のオリジナルネクタイだと話し、オリジナルネクタイを付けた人は全員、大使にネクタイを見せました。

応接室は絵画や花が飾られ、全てが上質な空間でした。庭に面した大きなガラス窓からは、正面に大きな桜の木のある和風庭園が一望できました。

伊藤さんが大使に就任のお祝いを述べ、商店街のオリジナル商品をお土産に渡しました。レーベル大使が「一番喜んでくれたのは、ブレーメンピアです。『ピルスナーが一番おいしい。ブラウヴヴァイツェン、ゴールデンエンジェル、これもおいしい。ありがとうございます』と、日本語でお礼を伝えてくれました。伊藤さんはドイツ語の商店街マップや30周年記念誌を大使に



見せて、商店街の活動や、来年は口イドバサージュとの交流が30周年になることなどを説明しました。大使からは就任の祝意への感謝と訪問に対するお礼の言葉がありました。「今年はドイツからの訪日団も来るので、何か一緒にできる機会があればと思います。ブレーメン像というドイツのシンボルが、日本の商店街にあることを、ドイツの人に知ってもらいたいです」と大使から言葉がありました。大使はクックスハーフェン出身で、ブレーメンは一番近くて大きい街なので、よく買い物に行っていたそうです。

シエフ手作りのドイツパン2種とチョコレートケーキを食べながら歓談しました。レーベル大使が天

皇陛下に謁見した認証式に、田中大臣が奇跡的に立ち会い人になった話を聞きました。田中大臣は福島へ、伊藤さんは商店街へ大使をお誘いしていました。歓談後は庭園を散策しました。今の庭園は大正時代の政治家の小泉策太郎が作り、1960年代に造園家の飯田十基が改修したものです。奥には茶室のある四阿(あずまや)や不老門、鐘楼がありました。鐘楼には漢字で「日独友好親善之鐘」、ドイツ語で「響きは消えても調和は残る」というゲーテの言葉が彫られていました。記念撮影後は大使と握手をかわし、なごやかに訪問を終えました。今後ドイツ大使館と商店街のコラボ企画はあるのか?乞うご期待です。

(取材と文・中島ひろこ)

